武術とケア

DATA

- **主な連携先・メンバー**
  自由人ネットワーク主催・朝日カルチャー講師　河野智聖氏／護道・介助法創始者、介護福祉士　廣木道心氏／からだ指導室あんじん代表　栗本啓司氏
- **活動地域**
  関西大学堺キャンパス
- **活動期間**
  2019年度～継続中
- **活動資金**
  堺市と関西大学との地域連携事業

活動の目的

武術や整体に集約される日本の身体技法を、自閉症や発達障害の子どもたちへのケアや介護に応用している専門家を講師に招へいし、その身体技法を体験的に学ぶ機会を提供する

連携にいたる経緯

自閉症や発達障害のケアの現場において、子どもがパニックを起こし暴れたときに対応する技術をケア提供者が持たずに現場に臨んでいる現状を鑑み、護道、整体武術というケアと武術を融合させた身体技法を体験型の講座として提供したいと考え、連携に至った。

活動内容

本事業では、具体的な身体の技法を核として、武術とケアという一見全く相いれないものを繋ぎ、ケアの新たな可能性を探ることを目的に全3回の連続講座を開催した。

近年介護にあたって、古武術の身体技法を応用することで、介護者が楽に介護ができるようになるという技術が注目されている。スポーツとしての武術ではなく、実践としての武術の身体運用方法の応用可能性は多岐にわたる。本講座では、武術や整体に集約される日本の身体技法を自閉症や発達障害の子どもたちへのケアや介護に応用している専門家を講師に招へいし、その身体技法を体験的に学ぶ機会を提供した。特に、パニックを起こし暴れている子どもへの対処法は、ケアの現場でも大きな問題となっているが、実際にはその対処法は理論化も体系化もされていないのが現状である。そこに武術や整体等日本の身体技法を導入することで、現場の臨床的な判断に委ねられている状況を改善し、対人援助職の人たちの実践に対する一助となることを目指した。身体技法は、知っていても実践できなければ意味がないため、講座はワークショップ形式で行い、体験的に理解できる機会を提供した。

活動の成果

1. 身体の技法は単なる身体運用の技術ではなく、心の使い方の技法でもあるということを本講座を通して参加者に伝えることができた
2. 身体と心とがいかに一体のものであり、それゆえ身心一如のアプローチがいかに有効かを参加者に理解してもらうことができた

今後の課題・目標

武術というタイトルを前面に出してしまったことで、当初想定していた福祉関係の人たちの参加が少なかったため、より広く対人援助職の人たちに参加してもらえるように広報を工夫する

教員紹介

■ 人間健康学部 准教授

小室弘毅
Hiroki Komuro

専門は、教育人間学、教育方法学、教養論、身体論、ソマティック心理学など。身心未分の「からだ」を人間の学びと成長の要と捉え、ホリスティックな視点で「腑に落ちる」学びのあり方を探究している。ヨーガ歴20年、ヨーガ指導歴15年のキャリアももつ。